

公益財団法人 アダチ伝統木版画技術保存財団

事業計画書

令和7年度

令和7年度事業計画書

(自：2025年4月1日)

(至：2026年3月31日)

本年度は、これまで以上に公益性の高い事業に重点を置き、定款第3条に定める目的を達成するための事業の整理及び最適化を進めることにより具現化をはかり、本財団の目的を追求する。

〈事業内容〉

(1) 伝統木版画の制作技術等に関する調査研究等の奨励

① 研究等奨励交付事業

研究等奨励交付事業は伝統木版画の制作技術等に関して、研究・技術・絵画・素材・広報という部門において、調査、研究、実践活動の実施または計画している研究者、実施者に対し奨励を行うものである。

本年度も主に、絵画部門に焦点をあてた公募「アダチUKIYOE 大賞」を実施し、2-4名の受賞者に奨励金を交付すると共に受賞作品の木版画制作・発表を行う。審査は、公募としての可能性を広げるため、テーマを設けず、応募者の制作活動をまとめたポートフォリオによるものとする。募集方法は、国内はオンラインと従来の郵送による応募とし、海外からは昨年度同様オンラインのみとする。公募実施の告知に関しては、大学などの団体へのチラシの配布や掲示、財団ホームページ中心に、ソーシャルメディアや外部サイトとの連携も図りながら、より広く一般に向けて周知を図る。また、特に海外からの応募数の増加を受け、一昨年度より実施している海外の公募サイトなどでの告知を、本年度も引き続き実施する。公募期間は7月より12月末迄の約6ヶ月を予定し、締切りから2ヶ月以内にあらかじめ組織された審査委員会が選考基準に基づき審査し、応募者の中から本年度の交付対象者を決定する。審査結果の詳細については、本財団ホームページにて日本語と英語の二か国語にて公表し、選出された優秀作品は、伝統木版の技術者により次年度中に受賞者と協働し、木版画作品として制作され、完成した作品は、審査結果同様公表する。本年度は、第16回受賞作品を木版画として制作する。

◆令和7年度 審査委員会

小山 登美夫 ギャラリスト

三井田盛一郎 東京芸術大学美術学部絵画科教授

山下 裕二 明治学院大学文学部芸術学科教授 (敬称略、五十音順)

〈事業内容〉

(2) 伝統木版画の制作技術者の育成事業

② 後継者育成事業

財団設立以来、“育成事業”の主旨は、“次代を担う職人の育成”を目的に、見習い期間中にある若年層(主に20代)を対象として、育成金の交付を行うことにより育成の活性化及び促進を図ってきた。外部団体への育成金交付については、対象者の減少が見られるようになったため、平成21年度より“育成事業”と“技術者研修育成”を統合し、本事業としている。本年度も昨年に引き続き下記のとおり、より総合的かつ効果的な運用を行うこととする。

■「浮世絵木版画彫摺技術保存協会」会員を対象にした育成金交付は規定に基づいた案件については審査、検討の上実施するよう努める。

■本財団独自の研修制度は28年目に入る。多くの応募者に研修の機会を増やすため、研修期間を6ヶ月間とし、二期(前期・後期)制度で実施している。研修生には研修教材を供与するほか、月額10万円の助成金を支給し、研修の促進と継続性を高めるものとする。当該研修生が6ヶ月の研修後、技術者として雇用された場合には、その雇用主に対し、月額5万円の補助金を支給するものとする。昨年度、第28期研修生の募集を行ったところ、5名の応募があったが、8月に実施したインターンシップ研修を踏まえた書類選考の結果、適性が認められないと判断したため、第28期の採用は見送ることとした。なお、近年、研修生への応募者数が減少し、適性のある研修生を採用する機会を得られていないことから、募集方法の見直しが課題となっている。本年度は、インターネット上での情報発信の仕方を見直すとともに、美術系の大学や専門学校などへ向けての情報提供を強化していくこととする。

- ・第28期高度技術研修期間：2025年4月1日～2025年9月30日(前期)
2025年10月1日～2026年3月31日(後期)
- ・第28期高度技術研修生(前期)：該当者なし
第28期高度技術研修生(後期)：継続して募集を実施。
- ・技術研修所 東京都新宿区下落合3-13-17

〈事業内容〉

(3) 伝統木版画の制作技術者に関する研修会の開催

③ 技術実演・研修事業 1) 技術実演会

主に美術館および美術系大学、また小・中・高等学校

等を対象として、伝統木版の制作技術等に関する啓蒙普及をはかるために、本財団の理事ならびに評議員の中より伝統木版の制作技術等に精通する数名を講師として、要請のある施設に派遣したうえで「技術実演会」を行うものとする。本事業は、国内外を問わず広く一般からの要請によって実施する特に公共性の高い事業である。一般や外国人、企業人、子供などを対象に開催される、年6回程度の“摺実演会”を実施する。また、木版画の制作現場の見学を希望する一般の方を対象とした“職人の技に触れる集い・浮世絵版画実演会”も実施する。

2) 研修事業

伝統木版画の制作技術習得に意欲をもつ学生や一般を対象に、基礎的な制作技術を体系的に理解かつ習得ができる版画教室を年数回、本財団の常設展示場をはじめ美術館や教育機関などで開催する。

財団設立当初より毎年実施している「職人に学ぶ木版画教室」は、参加者が職人から伝統木版技術を学びながら木版画を制作するプログラムで、人気が高く、またリピーターも多いため、例年通り実施するものとする。

そして、②後継者育成事業の研修対象者を選抜することを目的とした1週間程度の夏期限定のインターンシップ研修会は継続すると共に、実施内容を精査し、より効果的な人材獲得の機会につながるよう努める。

〈事業内容〉

(4) 伝統木版画の制作技術等に関する資料の収集及び公開

④ 技術展示紹介事業

本財団常設展示場では、伝統木版画の総合施設として、伝統木版画の制作技術に関する材料、道具そして制作工程等の展示を常時おこなうと共に、これまで収集保存されてきた多くの文献資料等を公開している。これらの展示は、伝統木版画の技術伝承に関心を持つ個人や団体、また広く一般への啓蒙普及を目的として行われる。また、常設展示場では、毎年恒例となっている版画教室の参加者による成果作品の展示を始め、時機をとらえた企画展を年数回実施し、財団事業の成果を広く一般に報告すると共に、啓蒙普及をはかる。さらに、美術館をはじめとする公共施設で開催される展覧会等において、主催者から要請がある場合には、

事業成果作品や制作関連の展示品等の貸出を協調して実施する。

本年度は、⑥木版画制作監修事業の一環として、本財団がこれまで進行してきた『現代の浮世絵・国際創造プロジェクト』に招聘された国内外のトップアーティストと現代の彫師・摺師の協働によって創造された現代の浮世絵を紹介する展覧会『浮世絵現代』が東京国立博物館の表慶館にて開催される(令和7年4月22日～6月15日)。本財団は、本展覧会の共催として、伝統木版技術の魅力と技術継承の重要性について広く一般に紹介する機会と捉え、展示や広報などに積極的に関わっていくものとする。

〈事業内容〉

(5) 伝統木版画の制作技術等に関する情報の提供及び刊行物の発行

⑤ 情報提供事業

テレビ、新聞、雑誌等マスメディアからの取材及び画像の貸出依頼、また、広く一般からの制作技術等に関する問合せや相談等に対応し、伝統木版画技術に関する情報提供を行っている。

国内外へ向けて伝統木版技術の魅力を伝え、多くの人々の共感を得るための情報伝達手段として、本財団ホームページの果たす役割が年々高まっている。

これまで以上に、広く一般への効果的な情報発信ができるようにソーシャルメディアなどを利用しながら、国内外の人々と双方向のコミュニケーションを進めていくこととする。

本年度は、前出の展覧会『浮世絵現代』の開催により、伝統木版技術への関心が高まり、ホームページへのアクセス数の大幅な増加が予想されるため、閲覧者が求める情報をよりの確に伝えることを目的とし、ホームページの改修を実施することとする。また、事業計画・事業報告・収支報告など公益法人として重要な情報の公開については、引き続きホームページにて随時公開していく。

一方、本財団の設立趣旨や事業の目的および内容等の普及、事業成果の公表を意図して年1回発行されている『木版』については、本年度は7月に、前年度の事業活動と収支報告を掲載した『木版 vol.29』を3,000部発行し、賛助会員や広く一般へ配布する。

また、例年通り賛助会員には年に1回、活動の成果報告として進呈作品を無償で提供する。進呈作品のうち2点は、財団の活動主旨に賛同する現代の作家の作品

を伝統木版技術にて制作し、新しい木版画として発表する。これらの新しい木版画作品を広く一般に公開することにより、財団の活動主旨がより理解されることを目的とする。

〈事業内容〉

(6)その他この法人の目的を達成するために必要な事業

- ⑥ 木版画制作監修事業** 伝統木版画の制作技術を高いレベルで維持、継承するためには、浮世絵版画の復刻事業だけでなく、オリジナルの現代の木版画作品を制作することが最も重要である。本財団設立以来、特別顧問の先生方をはじめ多くの国内の著名作家のご協力により木版画制作を行ってきた。
- 近年、デジタル印刷技術が発達する中で、本財団が保存継承に努める伝統木版技術での作品制作には、他の印刷技法との違いや伝統木版技術特有の魅力を感じるような表現が重要となってくるものと考えている。本年度も引き続き、各方面の方々の協力を得ながら、伝統木版技術が持つ現代における可能性を模索し、活動していく。
- 本財団では、平成 29 年度より、国内外で活躍するアーティストが絵師となり、伝統木版技術で制作する木版画作品-現代の浮世絵-を日本から世界へ向けて発信していくことを目的とするプロジェクト(『現代の浮世絵・国際創造プロジェクト』)を進行してきた。本年度、その成果として、プロジェクトに招聘されたアーティストたちと彫師・摺師が創造した現代の浮世絵を紹介する展覧会『浮世絵現代』が東京国立博物館の表慶館にて開催される(令和 7 年 4 月 22 日～6 月 15 日)。
- 本財団では、この展覧会を広く一般に向けて、伝統木版技術の魅力と技術保存の必要性を訴えかける重要な機会と位置づけ、本財団の活動紹介と共に、積極的に展示や広報などに関わっていく。また、今後、本展覧会を国内外の美術館にて巡回することを目的とし、適切な会場の選定など、継続して活動を続けていくものとする。